

中山 隈先生は、何度も来島されて、宮良殿内を見たりして、八重山・石垣のことを研究しながら設計をされましたね。

隈 石垣には素敵なのがたくさんあります。赤瓦と漆喰の微妙なバランスの色合いを今回は使いましたし、八重山上布のあたたかさなどは特に議場に多く使われています。もともと石垣にある素材を使って現代建築をつくる。これからの建築の方向性は、伝統に立脚してその上で未来を目指すんだという一つのモデルが出来たと思います。

中山 リュウキュウマツに関しては、先輩方が植林して増やしてきたものが活用されました、全国にアピールする機会にもなると思います。また、議場の椅子には石垣牛の皮が使われています。これまでもあまり活用されてこなかったのですが、次につながる取り組みだと思っています。

揮毫にあたって

茅原 隈先生のお話を聞きながら、この庁舎への細やかな愛情と雄大なスケールを考えたときに、この城はこれから多くの子どもたちに大きな夢が開かれていく場所なんだ、ぬくもりもあたたかさも想像させる場所だと感じました。

門標の文字を書くにあたって、先ほども申し上げましたが楷書がいいと思っていました。一点一画の中に、市民の心が手足となって伸び伸びとしているような字を書きたいと思いました。そんな中で次の言葉が浮かびました。

新庁舎落成記念銘板揮毫にあたって

威風堂々と立つ類い

稀なる風貌と雅は古式

懐しい城市を慕う

感慨無量の銘板揮毫

は厳格な楷書で表現

未来永劫に摩らけゆく

石垣市民の安寧彌榮と

守護神が宿る八重山

群島の象徴八重山城

の雄姿真栄里の丘に

誇り建つ心ときめき

気韻生動を漲らせた

書が誕生した

私なりに精一杯な表現だろうと思います。

中山 ありがとうございます。今のお



言葉については新庁舎のヒンプンの玄関側に飾られております。皆さまにご覧いただきたいと思えます。

旧庁舎の思い出

茅原 実は、旧庁舎が出来た頃には、私は消防職員でした。その時に議場の議席のお名前を書かせて頂きました。新庁舎の議場は全く見違えていて、その歳月を思うと熱い物を感じました。

新庁舎議場の椅子に石垣牛の皮が使われていると知って、牛さんたちへの感謝の思いがしたし、行く先々で色んな思いがこみ上げてきます。議場から一階を覗くと、廊下がまるでハイウェイのようで、隈先生のアイデアにあやかって、これから先の人生の中で、このような文字が書けたらなと思えました。長生きしなければと思いました。

中山 旧庁舎が完成したころには、まだ島には舗装された道などはほとんどなく、旧庁舎の玄関前ピロティは貴重な遊び場でした。すべすべとしたコンクリートを初めて踏みしめた時の冷たさや楽しさが忘れられません。

この新庁舎で、小さな子どもたちが感じた事が、同じ様に大人になっても残ると思えますし、いろいろな夢とか想像が広がってくれたら良いですね。

茅原 旧庁舎の隣には消防庁舎が建ちましたが、それは私が、たしか宮崎の消防庁舎を見学して作成した資料（イラスト等）を基に、設計されました。結局完成する前に退職しましたが、あ

の頃から書に燃えていた思い出を振り返ると、古くなったんだなと実感します。

新庁舎を見てみると、この五〇年間でこんなに様変わりするものかと。子どもたちに見せると、私が描いた以上におそろしい程に変わっていきつきかけになると思います。

また、旧庁舎では蘇澳鎮の交流の碑の文字も書かせて頂きました。今日は新庁舎を見て、また生まれ変わりたいと思うようなトキメキを感じています。古い物があつて、新しい物が生きていくんだ、未来が切り開かれていくんだと思いました。

これからの子ども達が、ここから大きく羽ばたいていくことは間違いないと思います。最高の設計士が生まれ、最高な市長も政治家も生まれるでしょう。そんな市役所の中に、私の文字が刻まれるを光栄に思います。六〇年書をやっていて良かったと思います。

